

育休前後は「紀元前後」!



㈱富士通総研 主任研究員。内閣府「少子化社会対策推進会議」委員、「ワーク・ライフ・バランス官民連絡会議」委員、「子どもと家庭応援戦略会議」委員。専門は社会保障、人口問題、労働雇用。著書に「少子化克服への最終処方箋」(共著)など。

渥美 由喜氏 (あつみ なおき)

私はいま、共働きの妻とともに2歳の息子を育てている。もともと独身時代から、週末に地域で「子ども会」のボランティアをするほど、私は子ども好きだったこともあり、昨年、育児休業を取得した。

頭ではよくわかってはいたが、百聞は一見に如かず。育休前後で、「紀元前後」ぐらい、大きな変化があった。育休前、家事育児分担は4割やっていたつもりだったが、妻に「1割よ」と言い返された。その言葉の意味は、育休中によくわかった。気がつかなかった部分で妻がやっていたことがこんなにあったのかと驚いた。育休を経て、妻への感謝、母への感謝、女性全般への感謝の念が深まった。会社では、男性の育休取得第一号だったので、一時期、女性に妙にもてた。休む前は、女性数人に囲まれて、「私たち、これから産む女性社員のためにもがんばってください。」とエールを送られた。バレンタインにはチョコがたくさん机に置いてあるという連絡が入る。チョコを取りにいけば、若い女性が満面の笑みで、「男性の子育て、興味津々です。赤ちゃん可愛いでしょうね。こんど、遊びに行かせてください。」と言う。

一方、男性社員の反応は、複雑だ。「所得はどれぐらい減るの」、「絶対に会社の評価は下がるよ」、「近所の目って気になりませんか」、みんな恐る恐るきいてくる。

気持ちはわかる。私だって、これまで馬車馬のように四六時中働いていた環境から、育児に飛びこむのは不安だった。育休をとらない方が、気持ちはずっと楽だった。

しかし、文句なしに育児は楽しい。育休中、おしゃぶりをしようとして、口の位置がわからないのか、おでこに指を立てて、あれっという顔をしている息子と目が合って大笑いした。日々いっしょに成長しているという実感がある。「楽だった」と「楽しい」の違いは大きい。男性諸君、ぜひとも楽をしないで、育児をいっしょに楽しみましょう。最後に一句。「炊き立てのご飯かと思えばおむつから」

バランス良く、仕事と生活

男性の育児休業の取得率は1.56%。国は2017年までに取得率10%の目標値をかかげ、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス推進のための行動指針)を策定しました。だれもが、仕事や家庭生活や地域活動などを自分の希望するバランスで実現できる状態、これをワーク・ライフ・バランスといいます。仕事か家庭かの二者択一ではなく、仕事の土台は生活であるという考え方を進めるために、個人の意識を変えていくことや、企業の積極的な対応が重要なカギとなるはず。ひとり一人がやりがいを感じて働き、家庭や地域など仕事以外の生活も充実するワーク・ライフ・バランスを、できるところから取り入れてみませんか。

「仕事と生活の調和」というワーク・ライフ・バランスの考え方が広がっています。1年ずつ交替で育児休業を取られた平林陽さん・千恵さんご夫妻に、お話をうかがいました。



平林 陽(あきら)さん
明石市役所勤務
平林 千恵さん
西宮市立瓦林小学校教諭
平林 奏(すずむ)ちゃん
2歳

夫の陽さんが育休を取得されるとき周りの反応はいかがでした?

陽:妻の育休が終わる半年前に、まず直属の上司に相談しました。上司自身も共働きで、「今の制度があれば、自分も育休を取りたかった」と理解を示してくれ、後輩も、「後続が勇気付けられるので、ぜひ取って」と応援してくれました。

ただ私の両親はびっくりしたようです。育休後、復帰した時に立場が悪くならないか、私に離乳食を作るなどの子育てができるのかと不安だったらしくて。

千恵:遠方に住んでいる私の両親も夫が1年間育休をとることを心配してくれました。また、私が職場復帰して、夫にバトンタッチすると知った子育て仲間も「大丈夫?」と声をかけてくれ、今度は父子で仲間入りさせてとお願いしました。

育休を取っていかがでした?

陽:母親でなければ解決できない局面があるのではないかと不安もありました。しかしやってみれば大丈夫でした。母乳以外のことは、父親で充分対応できました。子どもが歩いた瞬間、しゃべりはじめた瞬間を自分の眼で見ることができ、一緒に喜ぶことが出来たこと、その瞬間に立ち会えたことがよかったです。

千恵:1年間母乳で育てることが出来たこと、そのあと、夫が育休を取ってくれたので、職場復帰後の1年間は不安な

く仕事にむきあうことができました。私は教師という職業が好きで、自分が子どもを持って感じた人生の豊かな部分を、教え子たちに返していけると思っていました。だから職場復帰は必ずしようと決めていました。

育児ノイローゼはなかったのですか?

千恵:育休中は母乳や離乳食のことなど悩むこともありましたが、子育て仲間と情報を交換したり、助産師さんに話を聞いてもらったこともあります。家で子どもと2人、悶々としたことも。そんな時、夫が休みを取ってくれ、サポートしてくれました。



陽:たまには大人と話をしたいという欲求はありました。趣味の仲間が声をかけてくれ、夜飲みに行ったり、職場の同僚にも会っていましたし、子育て仲間の集まりにもよく出かけていたので、「ママ友」たちがベビーマッサージの催しなどに誘ってくれました。土日には所属しているアマチュアの合唱団の活動に以前同様、参加していました。適当にリラックスしていたので育児ノイローゼにならなくてすみました。先に育休を取っていた妻も、その辺をわかっていたフォローしてくれました。お互いが育休を取るメリットは、子育ての大変さを両方がわかっていることでしょうか。

育休を取ったことによるデメリットはありましたか?

陽:ほとんどありませんね。1つだけあるとすれば、その年の収入がなかったことです。1歳を過ぎてからの育休には、給与補償がありません。しかし、年収はゼロでもあえて休むということで、職場への気兼ねは軽くなりました。給料があれば、逆に育休を取りにくかったかもしれません。

育休中でとくに心に残ったことを教えてください。

陽:日々子どもと一緒に忙しく過ごしながらも、一年間じっくりと子育てできて、自分の考え方に変化がありました。育休をとる前は、固定観念があり、子育ては母親が適しているのではないかと思っていました。しかし子どもと

プレパパの赤ちゃんだっこ体験

この6月21日、土曜日の午前に行われた芦屋市保健センターの「プレおや教室～交流会クラス～」を見学しました。プレおや教室では、妊婦の健康、母乳のしくみ、おっぱいケアについての質問に助産師さんが丁寧に応えていました。交流会には生後1か月半から4か月の赤ちゃん連れの親子10組も参加。母と子の愛着についてのお話や赤ちゃんマッサージの後、プレパパ、プレママたちは初めての赤ちゃんだっこを体験、生後間もない赤ちゃんを緊張した面持ちで抱かせてもらっていました。芦屋市では2か月に1回、出産間近のカップルが先輩パパ、ママたちと交流できる場を設けているそうです。土曜日開催が父親の参加率アップにつながったとうかがいました。(上田)



向き合う時間を取ったことで、仕事は自己実現の手段ではあるけれども、自分がここに今いること、人間としての基本は家庭で培い、心豊かに過ごすことが全ての基本ではないかと考えるようになりました。育休を取るかどうか、それぞれの境遇に応じた選択が自由に、自然にできる世の中がいいのだと思います。

千恵:夫が育休中にブログをつくっていました。そこに、「家族に代役はいない、息子の父は、妻の夫は、そして僕自身は世界中で僕だけだ」というようなことが書かれていたのですが、ふだんの生活の中では面と向かって言われたいことなので、夫がそのように考えていたのかと思い、印象に残りました。<http://blog.goo.ne.jp/hirazoo> 「育休パパはかく語りき!」



企業の積極的な取り組み

モロゾフ株式会社 (神戸市東灘区)

業種 洋菓子製造・販売等 従業員数 1854人(女性1349人 男性505人)

<ショートタイム社員制度の導入>

2007年10月、169人のパートターマーが短時間正社員(ショートタイム社員)へ転換。逆に希望すればフルタイム社員がショートタイム社員へ転換もでき、08年4月に3人がこの制度を活用している。必要に応じて働き方を変えるショートタイム社員制度はワーク・ライフ・バランスの推進に大きな後押しとなりそう。神戸市の「こうべ男女いきいき事業所」としてH17年度表彰。

P&G (神戸市東灘区)

業種 洗剤・紙おむつ・化粧品等研究開発・製造・販売等 従業員数 約4600人(日本 女性2600人 男性1700人)

<女性管理職や男性の育児休業取得者の増加>

柔軟な働き方ができるよう制度を整えており、女性社員の割合は高く、総合職の34%、課長・部長相当職の26%が女性。ダイヴァーシティ(多様性)を促進し、社員のやる気を伸ばすことが、生産性を高めワーク・ライフ・バランスの充実であるとしている。神戸市の「こうべ男女いきいき事業所」としてH15年度表彰。